



埼玉県マスコット
「コバトン」

令和7年度

水稻の生育概況 vol.4



(令和7年9月8日現在)
埼玉県農業技術研究センター

要 約

- ◎気象概況：8月の平均気温は観測史上最も高かった。降水量は平年に比べ少なく日照時間は多かった。
- ◎生育状況：早期栽培、早植栽培ともに平年より収穫期が早まっている。平地では出穂期以降高温に遭遇しているため、白未熟粒の増加等高温障害の発生が懸念される。普通期栽培も高温の影響で収穫期が早まると見込まれる。
- ◎今後取るべき技術対策
 - ・水 管 理：出穂30日後までは根の活力維持と地耐力の向上を図るため間断かん水を行う。早期落水は品質・収量を低下させるため絶対に行わない。
 - ・適 期 収 穫：品種ごとの登熟積算気温や籾水分等を参考に早めの収穫作業を心がける。
 - ・早期すき込み：イネカメムシにエサを供給しないよう、収穫後は速やかにほ場を耕うんし、稲株をすき込む。

1 気象の概況

8月の平均気温は平年並に推移した第2、3半旬を除いて平年よりかなり高く、月平均では+3.0℃となり、観測史上第1位となった。降水量は第2半旬を除き平年を下回り、月全体では平年比 25%となった。日照時間は、第1半旬から第3半旬までが平年並、第4半旬以降は平年よりかなり多く推移し、月合計では 136%となった。

2 生育の概況

(1) センター内生育相

ア 早期栽培（5月1日植 コシヒカリ）

出穂期が平年より5日早かったことに加え、その後の高温により登熟が早く進んだことから、成熟期は平年より7日早い8月27日となった。

出穂20日後調査では、稈長は平年比96%、穂長は平年比105%、穂数は平年と同等、風乾重は平年比108%となった。出穂期後20日間の日平均気温は30.6℃と白未熟粒が発生しやすい27℃を大幅に超えているため、白未熟粒の多発が懸念される。

イ 早植栽培（5月20日植 彩のかがやき）

高温の継続により葉位の進展や幼穂の伸長が早く、主稈総葉数は平年より0.7枚多くなったものの、出穂期は平年より1日早まった。

出穂期調査時の草丈は平年比92%、茎数は平年比101%、風乾重は平年比110%となった。出穂20日後調査では稈長は平年比91%、穂長は平年比94%、穂数は平年比102%、風乾重は平年比114%となった。稈長、穂長が平年を下回った要因として、移植後30日以降の高温多照によって過繁茂となり、以降の生育において栄養不足になったこと（群落における葉色は生育期間を通して平年差-0.4と淡く推移）や7月の第4～6半旬まで続いた多照の影響によって稈長の伸長抑制があったと考えられる。出穂後20日間の日平均気温は30.3℃と著しい高温で経過したため、白未熟粒の多発が懸念される。

ウ 普通期栽培（6月25日植 彩のきずな）

移植後40日調査時点において止葉の抽出が確認され、主稈総葉数は平年より0.6枚少なく、出穂期は平年より5日早まり、8月12日となった。これは累年調査史上最も早かった。「彩のきずな」は感温性が高く、高温によって出穂は早まりやすい。本年は移植以降高温が継続したことに加え、幼穂形成期から節間伸長期となる7月第4半旬～8月第1半旬が平年より2～4℃程度高かったことから幼穂の生育が促進され（移植後40日調査時点において幼穂長は10.0cm（平年値1.8cm））、出穂が早まったと考えられる。

高温多照の影響により、生育は茎数、葉位、風乾重において平年を上回って推移し、出穂期調査時点では草丈は平年と同等、茎数は平年比115%、風乾重は平年比118%、出穂20日後調査では稈長は平年比97%、穂長は平年比99%、穂数は平年比107%、風乾重は平年比98%となった。

（2）県内全般

生育期間を通じて気温が高く、日照時間も多く推移したことから生育は良好で、全般的に生育は早まっている。

早期栽培では、出穂期が5日程度早まり収穫作業の進捗も過去5か年の平年より早まっている。

早植栽培も早期栽培と同様に生育が早まり、出穂期は平年より4～5日程度早くなっている。

普通期栽培でも出穂期が2～3日早まっている。

出穂後20日間の平均気温が27℃を上回ると白未熟粒の発生が急増する。本年は県内の平地では、8月末までに収穫したほ場は全て出穂後20日間に27℃以上の高温に遭遇している。

イネカメムシの発生は全県的に拡大しているが、薬剤防除が行われたほ場では被害は抑えられている。現在、第2世代成虫が発生している。

3 今後の生育予測

（1）気象予測

気象庁が9月5日に発表した関東甲信地方の向こう1か月の天候の見通しでは、気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多い見込みである。なお、8月

19日に発表した関東甲信地方の3か月予報でも10月の気温は高い確率が60%の見込みである。

(2) 生育予測

ア 早期、早植栽培

早期栽培では収穫はほぼ終了、早植栽培でも順次収穫作業が進んでいる。高温障害の発生が懸念される。

イ 普通期栽培

出穂期は2～3日程度早まっていること、登熟期間の気温が高いと予報されていることから収穫開始時期が早まると予想される。

4 今後取るべき技術対策

(1) 早期、早植栽培

ア 収穫・乾燥・調製

刈遅れは着色粒や胴割粒の発生が増加し外観品質を低下させるので適期収穫を徹底する。高温年は帯緑色粳の減少より玄米の成熟が早まる傾向にあるので、品種ごとの登熟積算気温を目安にし、粳水分が25%以下に低下したら、速やかに収穫を始める。

倒伏が発生した場合は、成熟期に達しているほ場では速やかに刈取りを行い、登熟ムラのあるほ場ではできるかぎり刈分けを行い、品質低下を防ぐ。収穫時の粳水分が高くばらつきが大きい場合には、一晚程度通風乾燥を行い、粳水分が20%程度になってから火力乾燥を行う。

斑点米カメムシ類の吸汁等による着色粒や雑草種子などの夾雑物が混入する場合は、色彩選別機の利用を検討し、検査等級の向上を目指す。

イ 早期稲株すき込み

収穫後の稲株から発生する穂（ひこばえ）はイネカメムシにとって栄養価の高いエサとなるため、収穫後には速やかにほ場を耕うんし、稲株をすき込む。

気温が比較的高い時期にすき込むことで、有機物の分解が促進されるため、翌年のガス害の低減が期待できる。

(2) 普通期栽培

ア 水管理

早期落水は外観品質の低下や粒張不良など著しい悪影響を与えるので避ける。根の活力維持のため出穂後30日までは間断かん水を徹底する。

イ 収穫・乾燥・調製

刈遅れは着色粒や胴割粒の発生が増加し外観品質を低下させるので適期収穫を徹底する。高温年は帯緑色粳の減少より玄米の成熟が早まる傾向にあるので、品種ごとの登熟積算気温を目安にし、粳水分が25%以下に低下したら、速やかに収穫を始める。

倒伏が発生した場合は、成熟期に達しているほ場では速やかに刈取りを行

い、登熟ムラのあるほ場ではできるかぎり刈分けを行い、品質低下を防ぐ。

収穫時の籾水分が高くばらつきが大きい場合には、一晩程度通風乾燥を行い、籾水分が 20%程度になってから火力乾燥を行う。

調製後に斑点米や雑草種子などの夾雑物が混入している場合は、色彩選別機の利用を検討し、検査等級の向上を目指す。

解析・考察に用いた具体的数字

1 気象表（熊谷気象台日別測定値から集計）

半旬	平均気温(°C)		最高気温(°C)		最低気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	31.4	27.7	37.9	33.1	26.8	23.8	1.5	20.3	33.7	30.2
2	28.5	27.8	33.3	33.1	24.5	23.8	33.0	21.6	27.5	29.8
3	27.8	27.5	32.7	32.7	24.6	23.6	6.5	27.2	24.3	27.6
4	30.6	27.0	36.9	32.1	26.3	23.3	0.0	32.8	44.9	26.2
5	31.5	26.6	37.9	31.6	27.0	22.9	0.0	36.8	45.2	25.4
6	30.7	26.2	37.4	31.1	26.0	22.5	5.5	42.2	54.1	29.4
平均	30.1	27.1	36.0	32.3	25.8	23.3	合計 46.5	183.3	229.7	169.3

注) 半旬数値は熊谷地方気象台日別測定値から集計。ただし、月平均・合計は気象台値。

平年値は 1991～2020 年の気象台値。

2 早期栽培（5月1日植 コシヒカリ）

（1）出穂 20 日後調査

稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/株)			風乾重(g/100本)		
本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
85.5	89.1	96	21.1	20.1	105	20.9	21.0	100	2326.3	2160.6	108

注) 平年値は平成11年～令和6年の平均(H22を除く)。 平年比は%

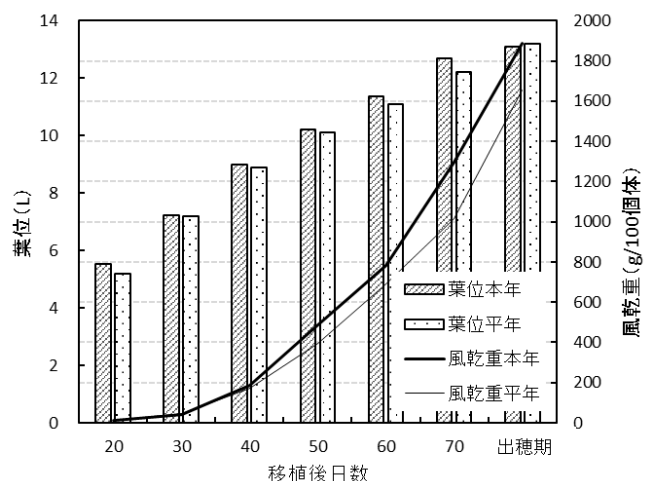
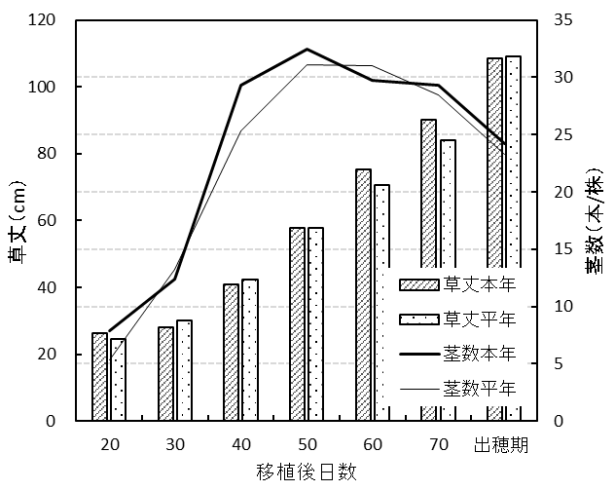
うち、稈長の平年値は平成17年を除く。

（2）出穂・成熟

出穂始(月日)			出穂期(月日)			穂揃期(月日)			成熟期(月日)		
本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
7/12	7/20	-8	7/20	7/25	-5	7/23	7/28	-5	8/27	9/3	-7

注) 平年値は平成11年～令和6年の平均(H22を除く)。

（3）生育経過



3 早植栽培（5月20日植 彩のかがやき）

（1）本田生育

移植後 日数	草丈(cm)			茎数(本/株)			葉位(L)			風乾重(g/100本)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比
80	90.0	102.1	88	21.4	20.1	106	14.9	14.2	0.7	1976.1	1764.6	112
出穂期	101.2	110.2	92	19.6	19.5	101	14.9	14.2	0.7	2150.8	1960.2	110

注) 平年値は平成12年～令和6年の平均。 平年比は%

（2）出穂 20 日後調査

稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/株)			風乾重(g/100本)		
本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
71.8	78.6	91	19.6	20.9	94	18.3	18.0	102	2648.6	2324.1	114

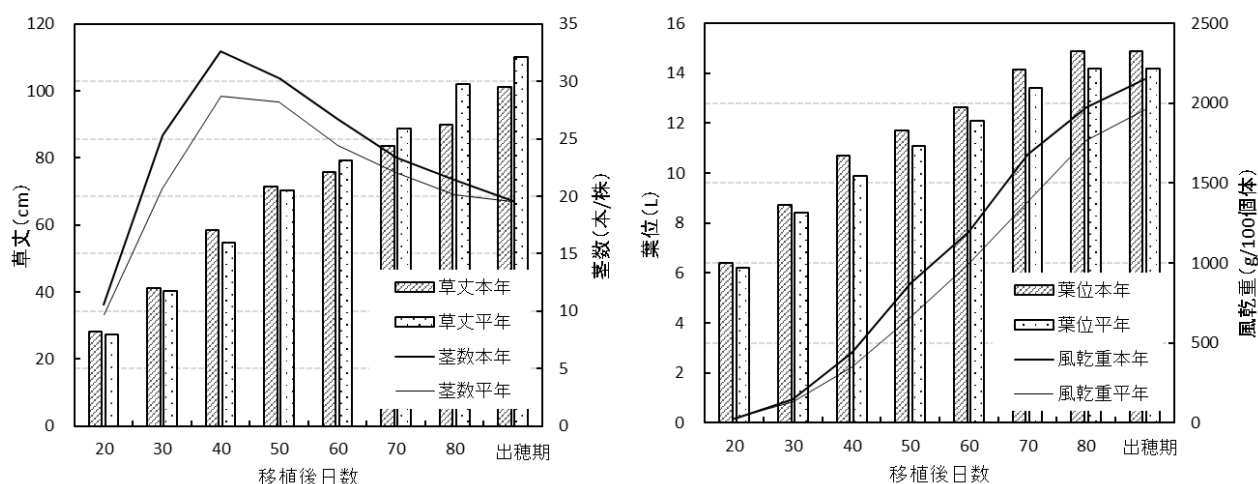
注) 平年値は平成12年～令和6年の平均。 平年比は%

（3）出穂・成熟

出穂始(月日)			出穂期(月日)			穂揃期(月日)			成熟期(月日)		
本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
8/10	8/9	1	8/11	8/12	-1	8/13	8/14	-1	-	9/27	-

注) 平年値は平成12年～令和6年の平均。

（4）生育経過



4 普通期栽培（6月25日植 彩のきずな）

（1）本田生育

移植後 日数	草丈(cm)			茎数(本/株)			葉位(L)			風乾重(g/100本)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年差	本年	平年	平年比
40	74.5	72.9	102	28.9	25.3	114	12.2	11.8	0.4	926.5	703.6	132
50	86.4	86.0	101	26.3	23.0	114	12.4	13.0	-0.7	1295.5	1066.3	121
出穂期	89.0	90.0	99	25.5	22.2	115	12.4	12.9	-0.6	1419.4	1202.8	118

注) 平年値は平成27年～令和6年の平均。 平年比は%

（2）出穂 20 日後調査

稈長(cm)			穂長(cm)			穂数(本/株)			風乾重(g/100本)		
本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
65.9	68.2	97	20.6	20.8	99	21.7	20.3	107	1698.3	1729.1	98

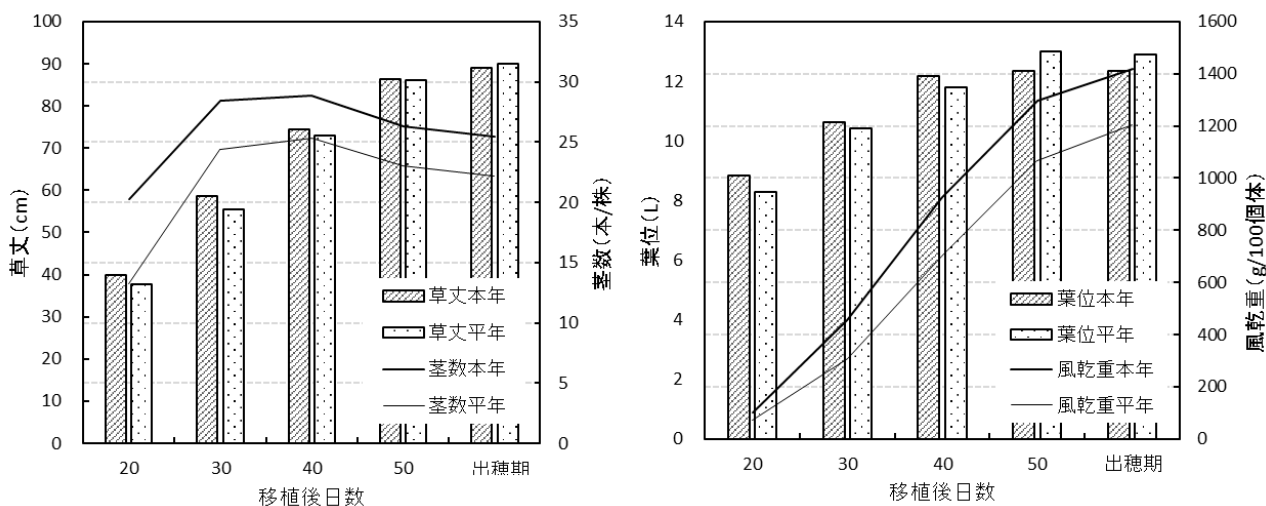
注) 平年値は平成27年～令和6年の平均。 平年比は%

(3) 出穂・成熟

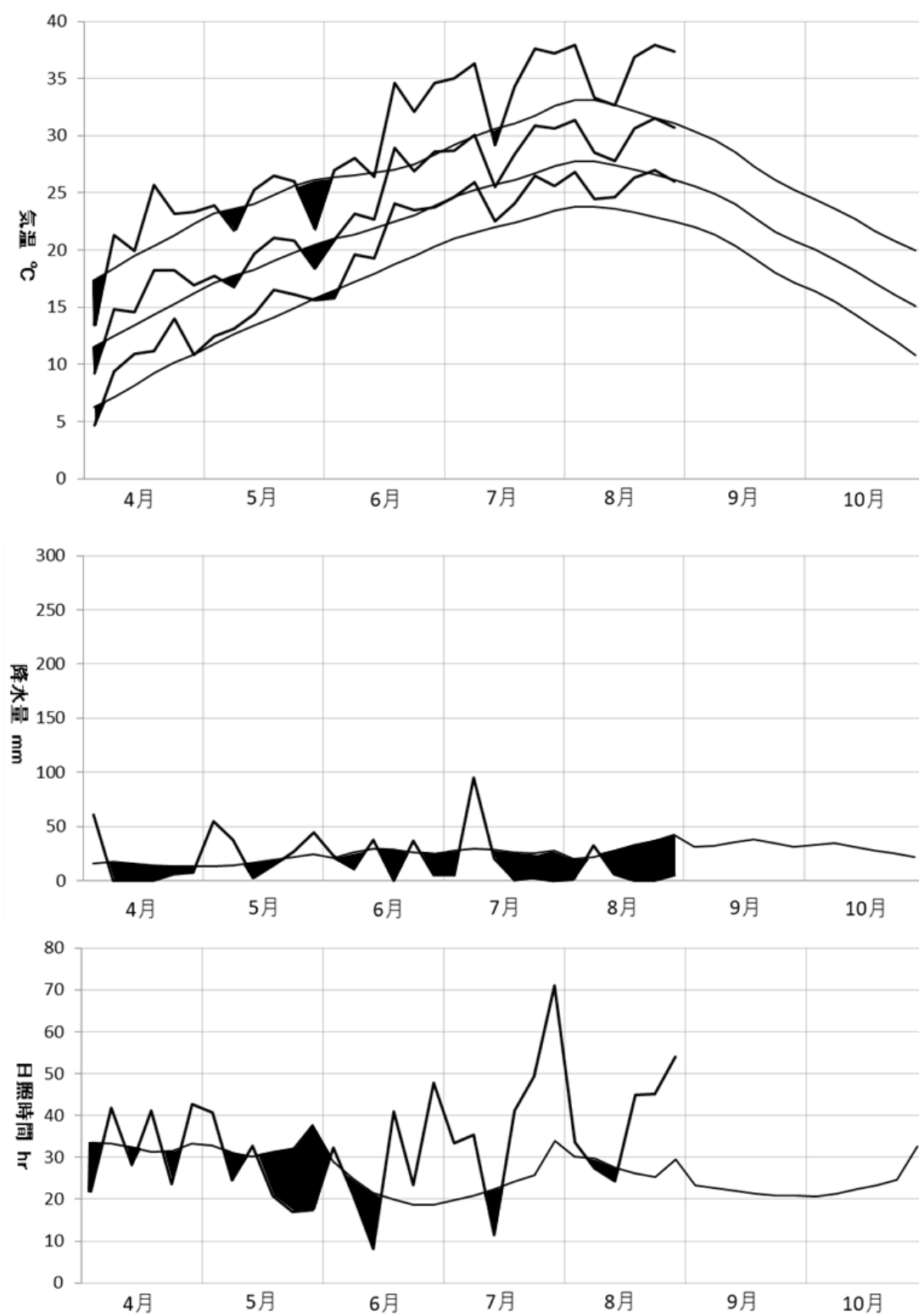
出穂始(月日)			出穂期(月日)			穂揃期(月日)			成熟期(月日)		
本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差	本年	平年	平年差
8/11	8/14	-3	8/12	8/17	-5	8/15	8/19	-5	-	9/30	-

注) 平年値は平成27年～令和6年の平均。

(4) 生育経過



注) 平成30年、令和5年は出穂期がかなり早まったため、50日後調査データを除外。



令和7年夏作期間気象図
(熊谷気象台日別測定値から作成)